

2011年8月期第一四半期決算説明会Q & A(2011年1月13日開催)の主な質疑応答をテキストでご覧いただけます。内容につきましては、ご理解いただきやすいよう部分的に加筆・修正しております。

Q1: 上期の業績予想では、国内ユニクロの売上高 100 億円を減額修正されましたが、これは 12 月の売上状況だけを反映したものなのでしょうか、それとも 1、2 月の見通しも従来の予想から変更していますか？

A1 大西CFO: 売上高の減額修正につきましては、12 月の実績と 1 月、2 月も含めて修正しています。

Q2: 上期の粗利益率の予想を若干下方修正されましたが、これは原材料価格が上がってきていることが影響しているのでしょうか？

A2 大西CFO: 上期の粗利益率予想を下げたのは、基本的にはこの 12 月の売上高が下ぶれしたことにより値引き販売が若干増える予想を反映させたからです。また、下期の原料高については、ほぼ確定していますので、そこに関しては特に今回は修正を加えていません。

Q3: 2011 年秋冬商品の原料調達コストについても上昇が続く可能性はありますか？

A3 大西CFO: 全くないとは言い切れませんが、現時点ではまだコメントできません。

Q4: 原綿価格が高騰していますが、秋冬の素材の手当はできているのでしょうか？

A4 大西CFO: 原料のことで皆さんには大変ご心配いただいておりますが、基本的には機動的に確保しております。もちろん原料高については、それを吸収していくことを考えています。

Q5: 綿花の市場価格は現物と先物でずいぶんスプレッドがありますが、ユニクロではどういった価格で綿花を調達しているか教えてください。

A5 大西CFO: 当社は綿の先物予約は実施しておりませんので、仕入れ価格については、それぞれのお取引先様との交渉で決まっています。実際の取引価格については、コメントできません。

Q6: 足元の在庫状況についてコメントをお願いします。11 月末では、それほど前年同期比で増えていないというご説明でしたが、1 月現在の在庫の状況を教えてください。

A6 大西CFO: 11 月末の在庫の数字については、前年比でそれほど増えてはおりません。12 月の売上高は、我々の予想から下ぶれましたので、その分の冬物在庫が増えているような状況です。ただ、問題のある在庫の水準ではありません。

Q7: グローバル体制への基盤整備ということで、情報システムの整備を実施されていると思いますが、その進捗について教えてください。

A7 大西CFO: 「グローバルワン」ということで、全社をひとつの会社として運営していけるように、仕事のやり方、それに合わせた業務システムを変えていく取組みを、この 1 年半、ないし 2 年間くらい続けております。10 月の説明会の時に、「ファイナンス関連、例えば、経理、財務、または人事の一部で 9 月から新システムを導入」ということをお話していると思います。今もそういった取組みが進んでいるという状況です。

Q8: 柳井社長のコメントに、「中国ユニクロでは店長のレベルが均一化されていない、教育を強化する」ということがありましたが、その後の教育・採用の進捗はどうでしょうか？

A8 大西CFO: 中国事業の好調は、もちろん現場のいろいろな改善が要因としてあると思います。そういった意味では、人材育成は進んでいますが、まだまだ課題はあります。引き続き、日本から優秀な店長、スーパーバイザーを中国に派遣して教育の強化を図る一方で、現地での採用にも力を入れています。

Q9: ユニクロの商品戦略変更による効果が下期から出てくるというご説明でしたが、具体的にはいつ頃からでしょうか？

A9 大西CFO: 春夏頃からだと思います。

Q10: この第1四半期の商品カテゴリー別の売上高では、メンズ部門の売上高の方が相対的に良く、ウィメンズ部門の落ち込みが大きいです。その背景について教えてください。

A10 大西CFO: ウィメンズの方が、ファッション性を強めたことにより品番数が増え、結果的には落ち込み幅が大きくなってしまいました。

Q11: 「+J」の売上高は小さいと思いますが、その話題性などで、前年度は非常に大きな寄与があったと思います。今期の「+J」の評価を教えてください。また、今後の見通しも教えてください。

A11 大西CFO: 欧米、特に米国では非常に熱い支持をいただいています。それに比べると、日本での盛り上がりは若干弱いと思っています。これは課題として今後取り組んでいきます。

Q12: 第2四半期の粗利益率が前年同期比で6ポイントから7ポイントの大幅な落ち込みを予想している理由を教えてください。

A12 大西CFO: 前年の第2四半期に売上高が想定より大きく上ぶれたことにより、スポットで調達した為替で増産分を仕入れ、円高メリットが発生しています。これが前年の第2四半期の粗利益率改善に寄与しました。これによって、第2四半期の粗利益率は前年に比べて大幅な差となっています。この第1四半期の若干の粗利率上ぶれ分も含めて、第2四半期の粗利益率を修正していますがモデレートな修正です。

Q13: 特別損失に関する質問です。今期、一括計上を予定していた物流費の一括償却、資産除去債務などが第1四半期に計上されていましたが、期初予想に比べて少ない金額でした。通期ではどのような数値を予想されていますか？また、特別損失8億円は、靴小売店閉店による影響を新たに織り込んだという理解でよいでしょうか。

A13 大西CFO: 特損に関しましては、この第1四半期で計上した物流費の一括償却、減価償却の一括償却、資産除去債務といった項目は、今後追加で計上するということはありませんので、この金額で確定です。若干、当初計画から少ないというのは、きちっと精緻した段階でこの金額になったということで、特にそこに意図は含まれておりません。特別損失8億円は、靴小売店閉店により、新たに影響額を織り込んだものです。結果的には、通期では想定通りの特別損失の金額に収まるのではないかと考えています。

Q14: この第1四半期の海外ユニクロの営業利益は前年同期比で52%増益の実績となっていますが、通期では3割増益の予想です。通期の見通しが上方修正されることはありますか？

A14 大西CFO: 第1四半期は売上高、利益でも比重の大きい四半期ですので、第1四半期の数値を4倍すると通期の数値にはならないです。また、米国5番街のグローバル旗艦店オープン経費に関しましても、今後出店に向けて経費がかかってきますので、そういった要素も含んで通期予想をしています。 以上